

高島及び関崎周辺地域の動物たち

高島の台湾リス

「佐賀関町高島及び関崎周辺地域」を代表するほ乳類は、高島に生息する台湾リスが挙げられます。高島は、夏季期間中は、海水浴やキャンプ地として開放されていて訪れた人もあると思います。また、キャンプ地の反対側の絶壁や海岸線は、ウミネコの繁殖地としても有名で、地元ではウミネコ祭も繁殖期には開催されています。

今回は、台湾リスを中心に紹介します。

リスはネズミ（齧歯類）の仲間

台湾リスを含むリスの仲間は、齧歯類（ネズミの仲間）に分類され、ほ乳類の中で最も種数が多く29科1,800種近くいて、全ほ乳類の種数の40%余りになります。ネズミにはじまり、ビーバーやムササビなどもリスに近いほ乳類です。この仲間には、共通する前歯（門歯）があり、絶えず伸び続け、歯根がありません。そして、犬歯がないことから、この齧歯類は植物食です。

台湾リスのふるさとは？

台湾リスのふるさとは、名前の示すように台湾南部の鬱蒼とした照葉樹林です。日本に生息する台湾リスは、人間によって意図的に持ち込まれたものです。日本の生息地としては、東京都伊豆大島、神奈川県江ノ島、静岡県熱川・浜松、和歌山県和歌山城、大阪府大阪城、兵庫県姫路城、そして大分県佐賀関町高島が知られています。

高島(右の図)の自然も台湾リスのふるさとと同じようにタブノキやヤブツバキなどの照葉樹林が鬱蒼と茂った自然林で覆われていて、その生息に適していたことで戦後の島への移入時から現代まで生き延びてきたと思われます。



佐賀関町高島の遠景

台湾リスの観察をしてみよう

日本で観察されるリスには、本州に生息するシマリス（一部九州に生息：野生化）、北海道に生息するエゾリス、エゾシマリス、そして九州では高島でしか観察できない台湾リスがいます。

その台湾リスを観察するには、夏季が中心となります。この時期には、高島のキャンプ場がオープンすることで佐賀関町から日に数本の定期便が出ており、高島への渡航が容易になるからです。（冬季は、瀬渡しの利用で渡ることができます。）

台湾リスの観察をするには、キャンプ場から戦時中の砲台跡や展望台へ伸びる道をゆっくり両サイドを観察しながら歩くことを勧めます。特にキャンプ場から砲台跡地やトンネルを過ぎたあたりが最適です。タブノキやイヌビワなどには、写真のようなかじった跡を見ることができます。



台湾リスがかじった跡と思われるキズ

台湾リスのおもしろい鳴き声

実際に台湾リスを観察すると素早く樹上を動きまわり、ふさふさとした太い尾で木の上でバランスをとっているのを見ることができます。普段の観察では、鳴き声を聞くことがあまりありませんが、繁殖期などには雌のまわりに十数頭もの雄が集まってきて、「コキコキ」という鳴き声を上げて、ひっきりなしに鳴くことがあります。時として人間の笑い声にも似て聞こえることがあります。高島でこの鳴き声を聞くことがあれば、台湾リスが繁殖期に入っていることのあかしです。高島には、トビや渡りの途中でのタカ類以外には目立った捕食者がいません。このタカ類が近づいたときには、また別の鳴き声「ガー」といった声を出します。この他にもいくつかの鳴き声を状況に応じて発することができます。これは、台湾リスが日頃から個体同士の行動圏を重複させ、鬱蒼とした見通しの効かない林の中での生活をしていることにより、鳴き声での情報伝達を発達させた結果だと考えられています。高島での台湾リスの観察の際には姿だけでなく鳴き声にも注目して観察することを勧めます。

さまざまな空間や場所に生息するリスの仲間

リスの仲間は、オーストラリアとマダガスカル島を除く全世界に分布しています。そして、地下、水中、地上、樹上といろんな空間を利用して生息しています。一般的にアジアでは、樹上性のリスが多く、北アメリカでは、地上性のリスが多く生息しています。